

議会だより

6月定例議会

しらたか



たなばたお楽しみ会 よつば保育園

Vol.99

2008.7.22

橋本町長 3期目に向けて出馬表明・・・⑤ p

- 8月1日からデマンドタクシーがスタート・・・③ p
- ・ 6月定例議会概要・・・② p
- ・ 町への質問・提言（3議員が一般質問）・・・⑤ p～⑦ p
- ・ 委員会レポート・・・⑧ p～⑨ p
- ・ 追跡レポート（あの質問のゆくえ）・・・⑫ p

激動期に対応した 施策の展開を

期待されるふるさと納税

文化振興・人材育成などに活用



梅雨の晴れ間に紅花摘み

報告 議会の動き

当局に配慮ある対応を求める

事前の説明が必要

6月11日、デマンド型交通システム導入に関する補正予算の質疑のなかで、議員から「事業計画が大幅に変更になる場合は、事前に議会に対し説明をすべきではないか。」と当局に猛省を促す意見がありました。定例議会終了後に開催された全員協議会で、8月1日から運行開始する「デマンドタクシー」の概要が当局から説明されました。議員からは、料金設定や使用する車輛、停留所に保養センター「パレス松風」は含まれないのかなどといった質問や意見が出されました。

まちづくりに活用

生まれ故郷や白鷹町にゆかりのある人が寄付金として納めることができる「ふるさと納税」制度の施行により、その受け皿となる「白鷹町ふるさと応援基金条例」が制定されました。条例の第7条に「基金の管理に關し必要な事項は町長が定める。」とありますが、具体的な内容を問われ、「基金の用途は、文化振興・人材育成・観光交流・コミュニティの醸成などとなります。」という答弁がありました。基金は、今後のまちづくりに寄与するものと期待されます。

定例議会は、6月10日から19日までの10日間の会期で開かれました。最初に、最上川流域にある多様な資源をつなぐいだ広域観光交流の推進をめざすことに合意し、6月6日、「白鷹・朝日・大江広域観光推進協議会」を設立したとの報告がありました。本会議に提出された主な議案は、白鷹町ふるさと応援基金条例など条例5件、20年度各会計補正予算などですが、審議の結果原案のとおり可決しました。後期高齢者医療制度の撤廃を求める意見書提出の請願は不採択となりました。一般質問は、3名の議員が当面する町の問題点や課題をたきました。任期満了の固定資産評価審査委員会委員の選任は、安達和子氏を全会一致で同意しました。

6月定例議会日程

月日	会議
6月3日	議会運営委員会
6月4日	議会広報特別委員会
6月10日	本会議、一般質問
6月11日	議会運営委員会 本会議
6月13日	産建文教常任委員会
6月17日	総務厚生常任委員会
6月19日	本会議 議会広報特別委員会



最上川の文化的景観を軸としたまちづくり推進会議 設立総会

一般質問

加藤秀人 議員



加藤 町民の負託に応える責任があると思うが決意は 町長 町民の幸せづくりを原点に三度目の出馬を決意

加藤 行政と民間の活力を融合させて、新たなまちづくりにかかすことが重要だと思います。行政と民間が一体となったまちづくりをどう進めるか伺います。

町長 まちづくりは、町民と行政の共同経営であります。ここ数年、地域力、町民力を結集し行政と連携しながら多様なまちづくりの活動がされており、新しいまちづくりの息吹を感じているところです。

自らの発想と蓄積してきた力を原点に行政機関や団体、個人との信頼関係を結び、具体的なかつ総合的に推

行政と民間が一体となって



川をきれいにEM泥だんごづくり(萩野地区)

加藤 「春サクラ。夏はベニバナ、秋はアユ。冬は隠れ蕎麦屋のしらたかへ」観光4シーズン化をどう進めるか伺います。

町長 季節ごとに白鷹の特色をとらえ、白鷹らしい旅づくりの環境整備などを検討し、交流推進や経済活性化に努めていきます。

進めていきます。

具体的にどう進めるか

加藤 生産から流通販売までインターネットの活用ですすめてはどうですか

町長 何といても町のホームページの活用です。白鷹について知りたいことがわかる、白鷹の暮らしがわかるホームページづくりに努めていきます。

加藤 フラワー長井線、最上川世界遺産登録に向けた取り組みなど、関係市町との連携をどう進めますか。

町長 観光交流促進の観点からも広域連携をはかり、さらに相乗効果をめざし付加価値づくりを推進していきます。

加藤 交流人口と定住人口を増やす取り組みについてはどうですか。

町長 交流と人口の定着はまちづくりの根幹をなすものです。「生活と文化、産業に通じる居住性豊かな定住交流社会」をめざしていきます。

町長の決意を問う
加藤 町長は町民の負託にこたえる重要な責任があると思いますが、決意のほどを伺います。

町長 私はこの時期にあり、町民の幸せづくりを原点として、これまでの蓄積をいかし、町民の総意とエネルギーを最大限ながら、全力で町政発展に確実につないでいかなければならないと考え、10月に予定される町長選挙に初心にかえって三度目の挑戦をする決意に至りました。

一般会計 四季の郷 住宅整備事業などに

4,148万円を追加補正

総額 74億 6,148万円となる

補正の主なもの

- 一般会計補正予算の主なものは、
- ・デマンド型交通運行事業 2,217万円
- ・四季の郷住宅整備事業 2,000万円
- ・公的資金補償金免除繰上償還 1,247万円
- ・やまがた新時代産地形成事業 2,266万円
- （耕作放棄地基盤整備事業）
- ・観光交流推進事業 30万円
- ・放課後児童健全育成事業 60万円
- ・原子力・エネルギーに関する教育支援事業 99万円

財源は、国県支出金、地方債や繰越金などで対応します。

平成20年度補正予算総括表

会計項目	補正額	補正後の額
一般会計	4,148万円	74億 6,148万円
特別会計		
下水道	3億 7,450万円	11億 6,391万円
老人保健	271万円	2億 9,972万円
企業会計		
水道 資本的支出	8,851万円	2億 4,389万円

質疑

減額の理由は
議員 県デマンド型交通システム導入促進事業補助金300万円減額の理由を伺います。

当局 20年度で県の補助金が終了する予定でしたが、来年度も継続されます。年度途中からのスタートとなり、補助金が少なくなることから満額補助を受けるため来年度に申請するものです。

議員 備品を購入
議員 原子力・エネルギーに関する教育支援事業の内

容を伺います。

当局 環境教育の取り組みです。観察、実験をおし環境意識を高めるために太陽光発電システム、燃料電池、バイオディーゼセルなどの備品を購入するものです。

公的資金補償金免除繰上償還とは、地方公共団体の厳しい財政状況を踏まえ、公債負担の軽減対策として平成19年度から3年間で高利率の公的資金の繰上償還（低利率借換え）を認めるものです。通常、地方債を繰上げ償還する場合、補償金を支払うこととされていますが、行政改革など一定の条件を前提としてこの補償金が免除されます。

条例

新しくなること



子育て支援住宅 完成予定図

乳幼児医療給付の対象者を見直し
医療給付事業に関するもので、乳幼児医療給付の対象者の所得制限額を、7月1日から一律159万円引き上げるものです。

入居基準
子育て世代に対し優良な支援住宅を提供します。入居者は所得の条件もありますが、小学校就学前の子供が中学校に就学する年の3月31日までとなります。新たに子供が出生した場合に入居期間を延長できるものです。

白鷹町ふるさと心援基金条例が制定
個人住民税の一部を生まれ故郷の自治体などに納めることができる制度です。

白鷹町国民健康保険条例の一部改正
4月1日から後期高齢者医療制度も含め、医療行為にかかる診療報酬の算定方法の改訂にともない改正したものです。

条例の廃止
白鷹町語学指導等に従事する外国人の給与、旅費支給に関する条例 直接雇用から事業者委託へ移行するため廃止するものです。

今野正明 議員



今野 行政の責任と役割をどうとらえるか

町長 町づくりの方向性に従った施策の展開をはかる

町民が欲しい情報の提供や公開を求む

今野 第4次総合計画も終盤に入り、第5次に向けて計画策定に入る時期です。行政は、世論をとらえ、一定の成果や、結果を出す責任と役割があると思います。

地域づくりの支援策や先進地事例などを公民館に掲示してはどうですか。

また、本町の今後の公共事業費(投資的経費)の状況などを示し、関係者に事業計画や展望をたててもらうことは、大事なことだと思いますがどうですか。

町長 的確な情報の伝達には、町報、公民館報、ホ-

ムページや年間予算をわかりやすく示した「わかるまちのしごと」の発刊などがあります。さらに、公民館を活用して掲示するなど、よりの確かな情報伝達の方法を検討し、情報提供や公開に努めていきます。

都市公園の管理は十分か

今野 財産や施設の管理責任は行政にあります。白鷹ニュータウン公園(宝前町)

は、都市公園ですが、桜の生育が順調でなく、適切な管理がされてないと思うがどうですか。

町長 専門家の指導をお願いして桜をいかにすようにし、今後は、都市公園としての機能を保つていくように管理に努めます。



白鷹ニュータウン公園

企業誘致をマニフェストに

今野 交流人口拡大策を超えた、人口減少に歯止めをかける確実な施策が必要ですが、

企業誘致を、町長のマニフェストにして、真剣に取り組んではどうですか。

町長 企業誘致は、地域の活性化という視点で極めて大事です。働く場の確保なしに、人口の定着はないので、是非ともマニフェストに入れて頑張っていきたいと思います。

誤記、混記のないように 今野 昨春の町議会選挙は、訴訟が提起され、第三者機関によって結論が出される結果となりました。次期町議会選挙で誤記・混記のないように改善・研究すべきと考えますがどうですか。

町長 電子投票や記号式投票の方式もありますが、まだいろいろ課題があり現段階では記号式投票が原則と考えています。昨年のようなことを繰り返さないように、選挙管理委員会ですしい判断や今後の対応を検討してもらおうにしていきたいと思います。

産業振興課長 公的資金の返済がない時の責任は、公庫への返済なので借り入れをした事業者ということになります。

現在の経営状況はどうなっていますか。また不幸にも事業が破綻して、公的資金が返済されない時の責任はどこになるのか伺います。

町長 経営状況は、個人情報になるので答えられる範囲になりますが、原油や輸入飼料の高騰により、経営の悪化を招いているようです。

臭いを出さない最新システムに疑問

佐竹 町長はつい最近まで「新牧場は、悪臭や汚水を出さない最新システムであり住民には一切迷惑をかける」と公言してききましたが、現実はどうですか。

町長 悪臭を出さない対応として、今までの指導をさらに強めていくというところが一点、限度を超えるような場合は、公害防止協定なども含め、地域住民の方と事業者の合意を明確にして規制をはかるのが二点目と

実効性のある対策 佐竹 排水については県から改善命令がでていますが、臭いには出ていません。新牧場の臭いは「指導する」といつてから4年、旧牧場からすれば20年以上、解決のめどがついていません。実効性のある対策ができるのか伺います。

町長 悪臭を出さない対応として、今までの指導をさらに強めていくというところが一点、限度を超えるような場合は、公害防止協定なども含め、地域住民の方と事業者の合意を明確にして規制をはかるのが二点目と

全力で、現在の状況を改善するように努めます。

佐竹典明 議員



佐竹 養豚業者の環境問題に実効性のある改善を

町長 全力で現在の状況を改善するように努めます

設計変更の問題はないか 佐竹 前回の合同常任委員会協議会で、「新牧場を建設中に、途中で設計変更したことを把握していたのか。」という質問に、担当課長は「補助事業上と現場の施工上の変更手続きは違う。」という認識を示しました。建設時の変更で、手続きに問題はなかったのか伺います。

町長 補助事業の変更交付申請が必要な要件は、事業実施主体の変更、設置場所の変更、事業費の3割を超える増減があったときであり、いずれにも該当しないものでした。

公的資金が返済されないときの責任は 佐竹 新牧場には、はるかに公的資金が投入されまし



改善が課題

委員会レポート

常任委員会

産建文教 株式会社アーレスティ山形の第2期拡張工事に期待

6月13日、委員会を開催し所管事務調査を行いました。

産業振興課から、アルカディア財団の平成19年度事業報告があり、公益、収益を総括した当期損益は、燃料高騰の影響から源泉管理受託事業に町の特別対策補助金586万円を受けたことにより約11万円の黒字になりました。

収益事業の減収は、宴会の小口化、宿泊者の少人数化や単身での利用、入湯客の減少などによるものと説明がありました。

委員から「どのような対策を行ったのか」という質問に、昨年からの改善計画をもとに、経費の削減や営業力の強化に努めながら配置替えなどの内部改善も行っていると説明がありました。

所管事務調査では、担当課より

- ・県立高等学校の発展存続への対応
- ・浄水場送水管敷設工事
- ・白鷹プロジェクトの概要
- ・町地域活性化センター概要
- ・サテライトオフィスの移転
- ・(株)アーレスティ山形の状況
- ・最上川の文化的景観を軸としたまちづくりについて

説明がありました。

この中で、県立高等学校に関し、



(株)アーレスティ山形 現地調査

教育委員会から「県立高等学校構想検討委員会」を設置して取り組んでいることや6月27日に、町長、検討委員会長(奥山正雄氏)、教育委員会長が県教育長及び教育庁担当者へ要望書の提出を行うと説明がありました。

午後からは、津島台の浄水場送水管敷設工事現場と(株)アーレスティ山形の現地調査を行いました。

(株)アーレスティ山形は、第2期の拡張工事に着手しており、本年中に稼働したいとの説明を受けました。現在の雇用者は約210名で、町内の方は約65%に達しています。今回の拡張により約40名を新規採用する予定になっていることから、今後の雇用拡大などに期待をしました。

総務厚生 後期高齢者医療制度の撤廃を求める意見書提出の請願を不採択

6月17日、委員会を開催し、請願審査1件と議会への報告が必要である経営状況報告2件と所管事務調査を行いました。

「後期高齢者医療制度の撤廃を求める意見書提出」の請願については、各委員とも課題はあるとしながらも国民皆保険制度を堅持するとともに政府の見直し案が出てきているなか、制度撤廃の意見書提出には賛成できないとする意見が多数をしめ、不採択すべきものとなりました。

総務政策課から、土地開発公社の決算は、定期預金が1億4000万円あるなど、経営状況は大変良好であるとの報告がありました。

病院からは、(有)ケイエスしらかの経営状況が報告されました。所管事務調査では、それぞれの担



ふるさと納税 第一号 童門冬二氏

当課より

- ・町立病院の近況
- ・デマンド型交通システムの導入
- ・ふるさと納税制度
- ・19年度町税等の収納率、税源移譲による住民税の還付について
- ・保険事業の実施について

説明がありました。

デマンド型交通システム導入については、当初計画と変更になっているにもかかわらず、説明が補正予算可決後、ふるさと納税制度については、条例制定後の説明となったため、議会に対し事前に説明を行うなど、もっと配慮すべきとの意見が出されました。

特別委員会



どうなるか 市町村合併

市町村合併検討特別委員会

さらに小委員会を設置

市町村合併に関する調査研究を行うことを目的に、3月定例議会で議員発議により設置された市町村合併検討特別委員会(委員長 菅 祐二)が6月19日開催され、当局からは米沢市長が呼びかけ人となりすすめてきた「置賜広域合併勉強会」の経過報告がありました。

また、特別委員会での検討課題を整理し、本委員会に提起するために小委員会を設置しました。委員に、(小委員長 加藤 副委員長 佐藤 委員 青木 守 谷 関)5名が選任されました。

鮎貝まちづくり事業調査特別委員会

町内業者へ発注を

6月2日、特別委員会が開催され、子育て支援住宅の人居基準と、外構工事の前倒し、省エネに配慮した高断熱樹脂サッシを入れるため、四季の郷住宅整備事業に2000万円の追加補正をしたいとの説明を受けました。

委員からは、核家族推進住宅にならないようにすべき。町内土建業者を活用する観点から分割発注を検討すべき。民間アパート業者との意見交換を行い、理解を深めるようにすべきなどの意見がありました。



(仮称)文化交流センター 現地調査

人事

7月19日で任期満了となる白鷹町固定資産評価審査委員会委員は安達和子氏が全会一致で同意され再任されました。



安達和子氏

前号の8ページで紹介した、写真説明のひらび園は、「わらび園」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

請願

審査の結果はどうなった

不採択になった請願

後期高齢者医療制度の撤廃を求める意見書提出に関する請願
 請願者 山形市飯田西 1-2-30
 山形県社会保障推進協議会 会長 高木 紘一
 (不採択に賛成 9人 反対 4人)

契約

工 事 名 白鷹町プール整備工事
 工 事 場 所 白鷹町大字荒砥乙地内(東中)
 契 約 金 額 1億4700万円
 契約の相手方 白鷹町大字滝野 76番地 1
 共栄建運株式会社
 代表取締役 小松 弘



野外施設は好調 バレス松風

外郭団体 経営報告

(財)アルカディア財団

大幅な経営改善を

平成19年度事業
 パソコン講習会
 受講者総数：221名
 延べ日数：31日
 情報センター
 会員数 個人：251名 法人：46団体
 パソコン救急出張サポート(無料)
 ソフト開発受託・設定
 パレス松風 鷹野湯温泉 入湯者数
 入湯者の減少に歯止めがかからず、今期の利用客数は8万1202名、前年に比べ5877名、17年度に比べ1万2424名の減少となりました。
平成19年度決算
 公益事業
 収入合計7198万円(特別対策補助金586万円を含む)、支出合計7093万円となり105万円の黒字となりました。
 収益事業
 営業収入3億811万円、営業費用3億830万円となり野外施設を除くすべての分野で前年を下回り、支払利息を含め、94万円の赤字となりました。

白鷹町土地開発公社



操業を開始したエナ-テック(株)白鷹工場

平成19年度事業
 土地造成事業
 鮎貝工業用地9149㎡をエナ-テック(株)に売却しました。
 受託事業
 所有権移転69筆、住所変更4筆、相続15筆、所有権保存1筆の各登記を行いました。
平成19年度決算
 収入
 鮎貝工業用地売却収入、その他の収入を合計して5352万円となりました。
 支出
 工業用地売却原価と販売費及び一般管理費合計5153万円となり差引198万円の黒字となりました。

(有)ケイエスしらたか

主に町立病院の医療事務に従事

平成19年度事業
 業務受注状況
 受注先 町立病院 訪問看護ステーション
 町民税務課 健康福祉課
 理事、職員数
 理事 2名(非常勤・無給)
 職員 25名
 病院医療事務員9名・病院事務補助員2名・訪問看護医療事務員1名・技術室等補助員3名・調理業務員6名・国民健康保険医療事務員1名・保育士3名

平成19年度決算
 事業収益 6749万円
 事業費用 6724万円
 大件費6714万円(当期純利益10万円)
 (税引き後)



町立病院(医療事務)

追跡レポート

— あの質問のゆくえ —

定例議会で質問された課題が、その後どのように町政に反映されたかを検証します。



きれいアップ講座（蚕桑地区公民館事業）

地区公民館の新体制は

町職員を引き上げる新体制への移行は、時期尚早ではないのですか。社会教育の後退が心配されます。

平成 15年 12月定例議会

町長答弁

地域づくりの拠点としてとらえる
従来の行政からの指導・援助という枠を乗り越える運営が、自立した地域づくりの時代の公民館と考えています。

どうなった

地域主体の運営へ

平成 17年度から、地域主体の公民館運営をめざし、公募による公民館職員の配置や、公民館事業を審議するだけでなく、直接運営にも関わってもらうため公民館運営委員会を設置しました。今までと同様、公民館を利用いただいています。

運営面では「住民が企画段階から公民館事業に関わることができて良かった。」という評価をいただいています。

課題としては、多様化している地域課題を的確に把握し、どのように公民館事業に取り入れていくかだと考えています。

議会の様子を見てください

傍聴手続きは簡単、議会事務局（85-6135）へお問い合わせください。

次の定例議会は **9月** です

● 議会中継もご覧ください

お手持ちのパソコンでご覧いただけます
録画でもご覧いただけるようになりました

HP <http://www.townshiratakyamagata.jp/gkai/>

議会中継

発行責任者・議長
船山 仁
広報委員
委員長
青木 彰 榮
副委員長・編集長
関 千鶴子
委員
佐藤 誠七
委員
守谷 丹吾
委員
菅原 隆男
印刷・(有)梅津印刷

今年、何かと中国が話題になる年です。オチベツ自治区の問題や、リントン時区の問題、食・品物の環境問題、超えられた省の大地震、国内に目を向けると、安定しない政治や原油高騰の影響が国民の生活を不安定にしているようすが、仕事などが嫌になつた。むしやくなど、無差別殺傷事件が起きています。腹立たしさを感じます。

岩手・宮城内陸地震は、県人を含め22名の方が死亡や行方不明になりました。お見舞い申し上げます。

6月16日には、中津川震源とする地震が発生したことから、長井盆地には活動層が走っていること、再認識させられる必要が、個人ごとにも地震対策が必要だと思ひました。

今回の議会で、町長は秋の町長選に三度、出馬する意思を表明しました。今後の町政について、今後は揺るぎのないか意味になるところです。

編集後記

